

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

船橋市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査日時

令和5年4月18日(火)

※新型コロナウイルス感染症による影響により、令和2年度は未実施。令和3年度は1か月遅れの実施。令和5年度は例年通りの4月実施で調査を行った。

(3) 調査対象及び参加児童生徒数

- ・小学校第6学年（55校 5,447名）
- ・中学校第3学年（26校 4,811名）

(4) 教科に関する調査

①小学校 国語、算数 ②中学校 国語、数学、英語

※平成24年度から理科を追加。平成31年度（令和元年度）から英語を追加。ともに3年に1度程度の実施。英語は、平成31年度以来の実施。

※平成31年度（令和元年度）調査より、「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施。

(5) 生活習慣や学校環境等に関する調査

- ①児童生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等の調査
- ②学校における指導方法に関する取組や、人的・物的な教育条件の整備の状況等の調査

(6) 本市の調査結果

各教科における平均正答率

小学校	国語	算数
船橋市	66	64
千葉県	67	62
全国	67.2	62.5

中学校	国語	数学	英語
船橋市	70	54	50
千葉県	69	51	46
全国	69.8	51.0	45.6

※文部科学省の発表に基づき、全国平均正答率は小数第1位まで、県・市の平均正答率は小数点以下を四捨五入した結果を示す。

※全国は、公立小中学校の平均正答率を示す。

※中学校英語「話すこと」調査の結果は参考値のため全国、千葉県、船橋市ともに全体の平均正答率には含まれない。

2 教科に関する調査の結果について

(1) 学習指導要領の領域（内容）、評価の観点、問題形式別の比較

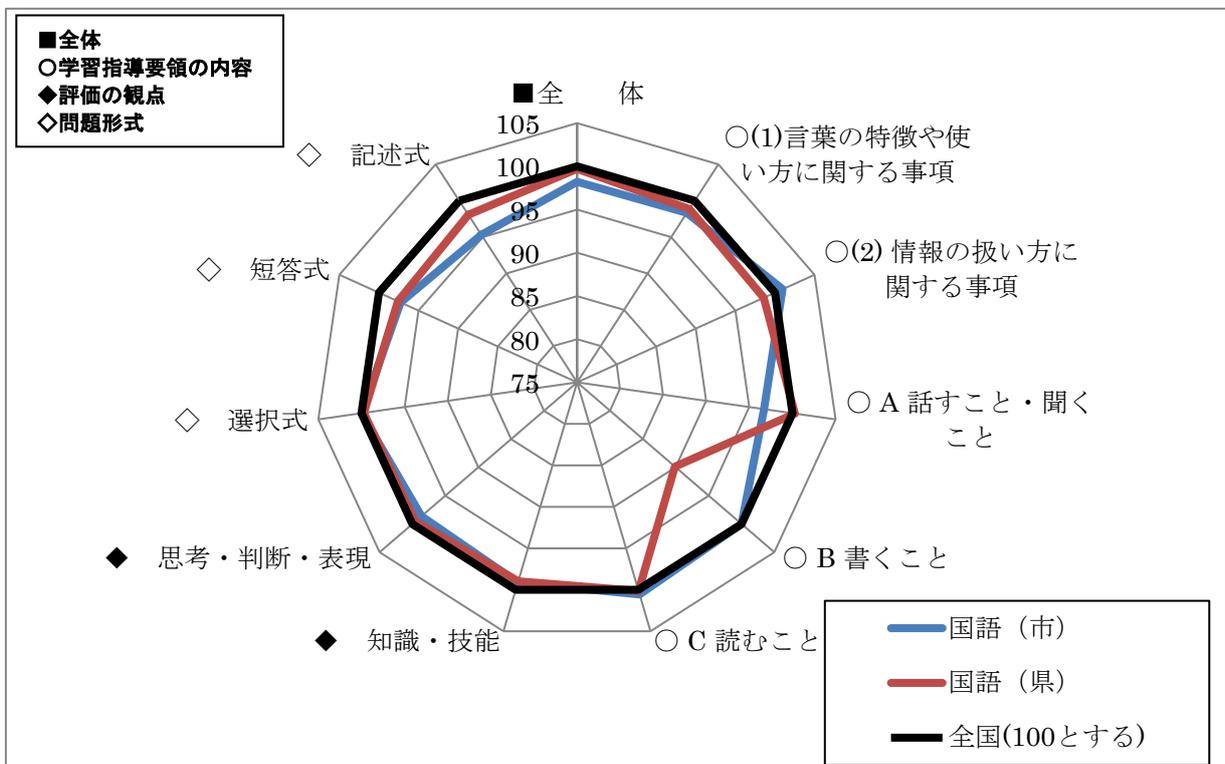
平均正答率の状況について詳細な把握を行うために、学習指導要領の内容、評価の観点、問題形式別に全国及び千葉県と船橋市との比較を行った。

《小学校》 国語 ※全国、千葉県、船橋市、共に公立学校

国語		船橋市	千葉県	全国	全国との差		
全 体		66	67	67.2	▲ 1.2		
平均正答率（％）	学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	70.0	70.4	71.2	▲ 1.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	64.0	62.5	63.4	0.6	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項					
	評価の観点	表現力、思考力、判断力等	A 話すこと・聞くこと	70.2	72.8	72.6	▲ 2.4
		B 書くこと	26.7	24.0	26.7	0.0	
		C 読むこと	71.6	71.3	71.2	0.4	
問題形式	知識・技能	68.3	68.2	68.9	▲ 0.6		
	思考・判断・表現	64.6	65.2	65.5	▲ 0.9		
	主体的に学習に取り組む態度						
問題形式	選択式	73.6	73.4	73.6	0.0		
	短答式	61.0	61.2	62.7	▲ 1.7		
	記述式	48.7	50.1	51.1	▲ 2.4		

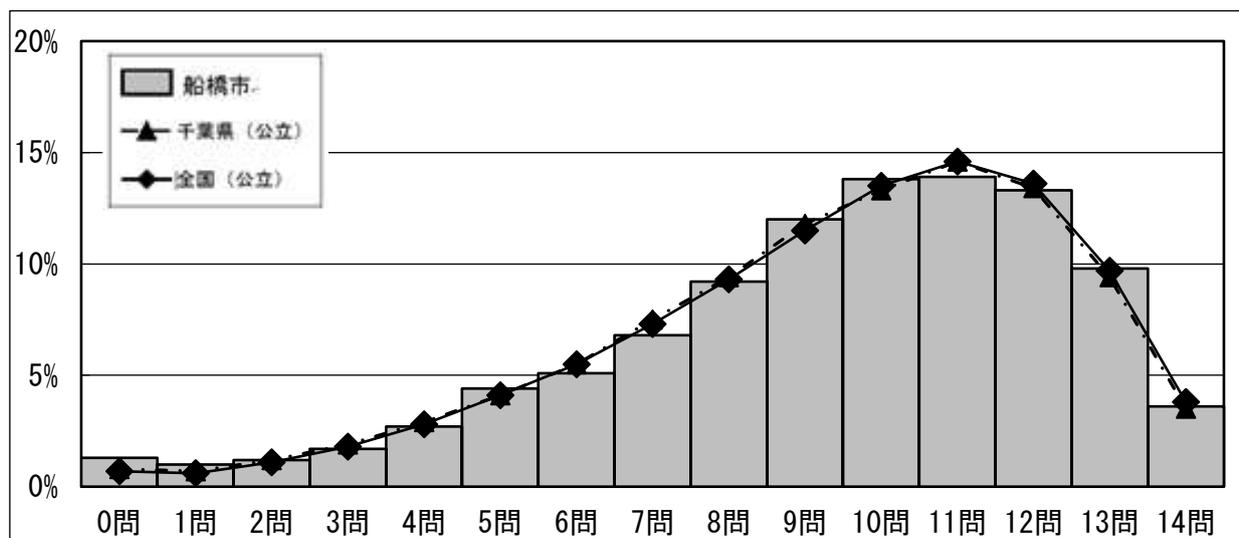
※斜線は該当する設問が無いもの

平均正答率が全国、千葉県共に上回ったもの



※全国を100として船橋市と千葉県の比較を百分率で表したグラフ
 ※今年度、該当する設問がなかったものについてのグラフは省略。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合) [国語]



傾向

- ・全国・県の平均正答率と比べると、「短答式」「記述式」の問題形式において、若干低い結果であった。学習指導要領の内容別では「読むこと」「情報の扱い方に関する事項」に関しては若干高いが、「話すこと・聞くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関しては課題がある。
- ・無解答率が全国と比べて高く、特に記述式回答の設問で多かった。
- ・正答数の分布は、全国・県とほぼ同様な分布を示している。また、最頻値や正答率の散らばりに関する値も、全国・県と同様であり、中央値についても、全国・県の値と同様であった。

課題が見られた主な設問

- 1 三(1)ア「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」
 <言葉の特徴や使い方に関する事項> (正答率 船橋市 50.3 全国 52.8)
- 3 二 「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」 <話すこと・聞くこと>
 (正答率 船橋市 64.1 全国 70.2)
- 3 三 「日常よく使われる敬語を理解している」
 <言葉の特徴や使い方に関する事項> (正答率 船橋市 56.0 全国 57.6)

学習指導のポイント

<目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる指導の充実>

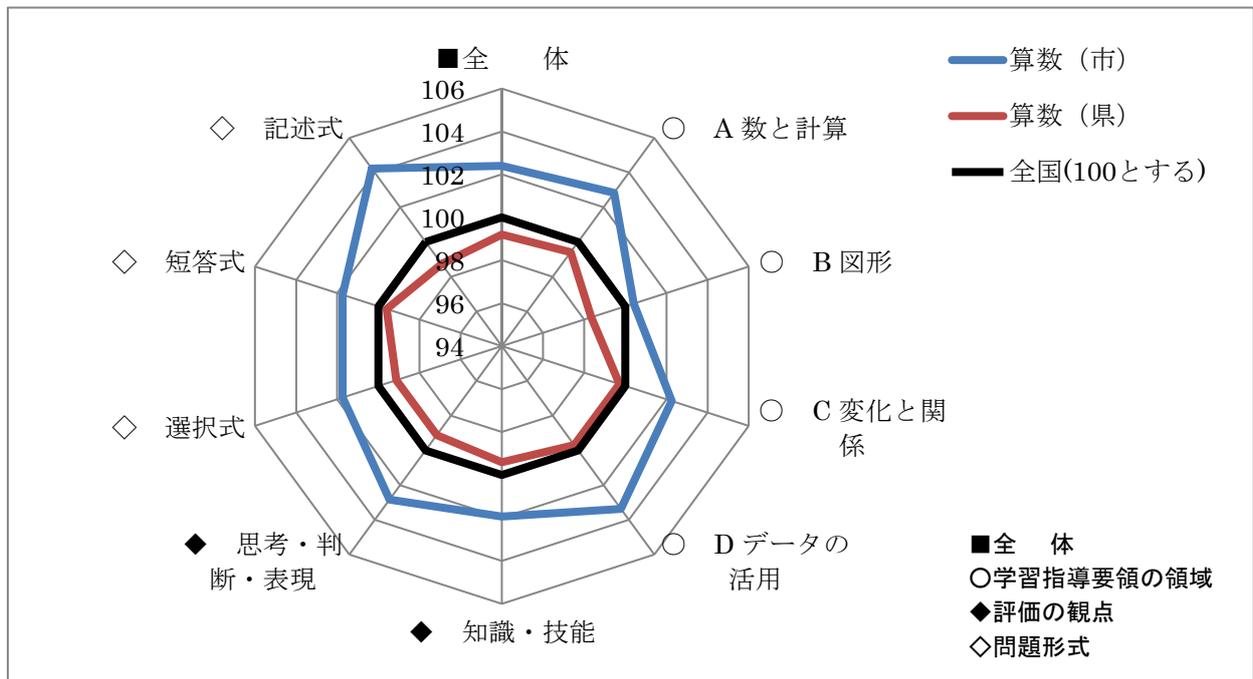
話を聞いて自分の考えをまとめる際には、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることが重要である。相手が自分に伝えたいことや、自分が求めている情報などを明確にして聞くことが大切である。話し手の考えと自分の考えの共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめることを指導すると効果的である。

《小学校》 算数 ※全国，千葉県，船橋市，共に公立学校

算 数		船橋市	千葉県	全国	全国との差	
平均正答率（％）	全 体	64	62	62.5	1.5	
	学習指導要領の領域	A 数と計算	69.2	66.9	67.3	1.9
		B 図形	48.4	47.4	48.2	0.2
		C 測定				
		C 変化と関係	72.5	70.7	70.9	1.6
		D データの活用	67.7	65.3	65.5	2.2
	評価の観点	知識・技能	68.5	66.8	67.2	1.3
		思考・判断・表現	58.1	56.0	56.5	1.6
		主体的に学習に取り組む態度				
	問題形式	選択式	58.7	57.2	57.7	1.0
		短答式	76.0	74.4	74.7	1.3
		記述式	49.3	46.7	47.3	2.0

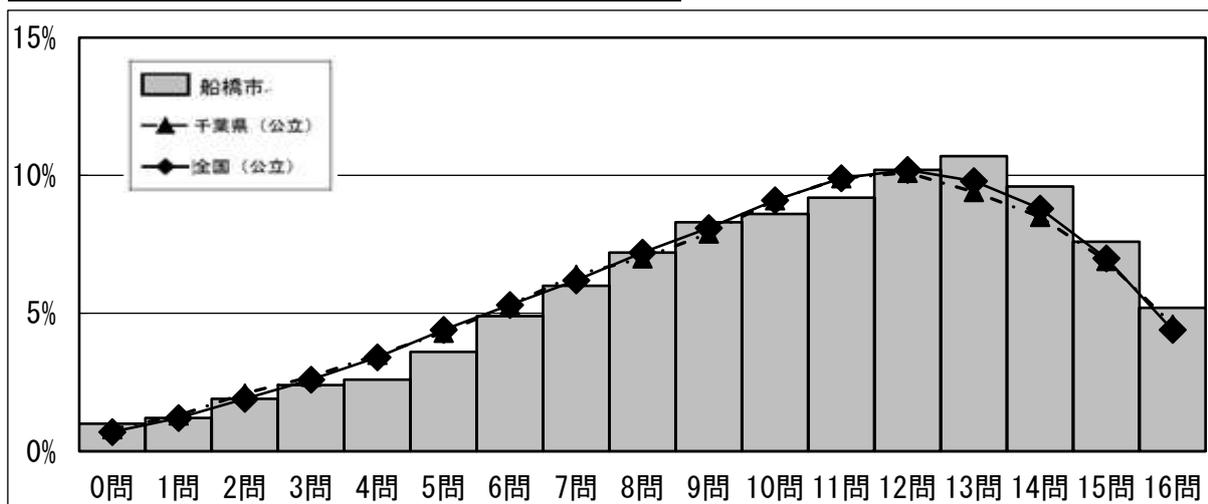
※斜線は該当する設問が無いもの

平均正答率が全国，千葉県共に上回ったもの



※全国を100として船橋市と千葉県の比較を百分率で表したグラフ
 ※今年度、該当する設問がなかったものについてのグラフは省略。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合) [算数]



傾向

- ・全体としては、全ての領域、観点、形式において全国・県の平均正答率を上回った。学習指導要領の領域における「図形」、問題形式における「選択式」に関してはやや課題がある。
- ・無回答率については、全ての設問で全国を上回った。
- ・正答数の分布は、全国・県とほぼ同様に正答数の高い側に寄った分布を示している。最頻値については全国・県より1問高い。中央値については全国と同様であったが、第1四分位数は全国・県より1問高い。また正答率の散らばりに関する値は全国・県と同様であった。

課題が見られた主な設問

- 2 (4) 「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」
 <図形> (正答率 船橋市 19.8 全国 20.8)
- 3 (4) 「(2位数) ÷ (1位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考察することができるかどうかをみる」
 <数と計算> (正答率 船橋市 47.6 全国 47.6)

学習指導のポイント

<底辺と高さの関係に着目し、図形の面積の求め方から面積の大小を判断できるようにする指導の充実>

課題が見られた2(4)では、具体的な数値が書かれていないことで高さを利用できない誤答や底辺と高さに着目していない誤答が目立った。

面積の学習をする際、平行な2直線にはさまれた、底辺の等しい平行四辺形や三角形の面積を比べる活動を通して、底辺と高さの関係について理解できるようにすることが大切である。

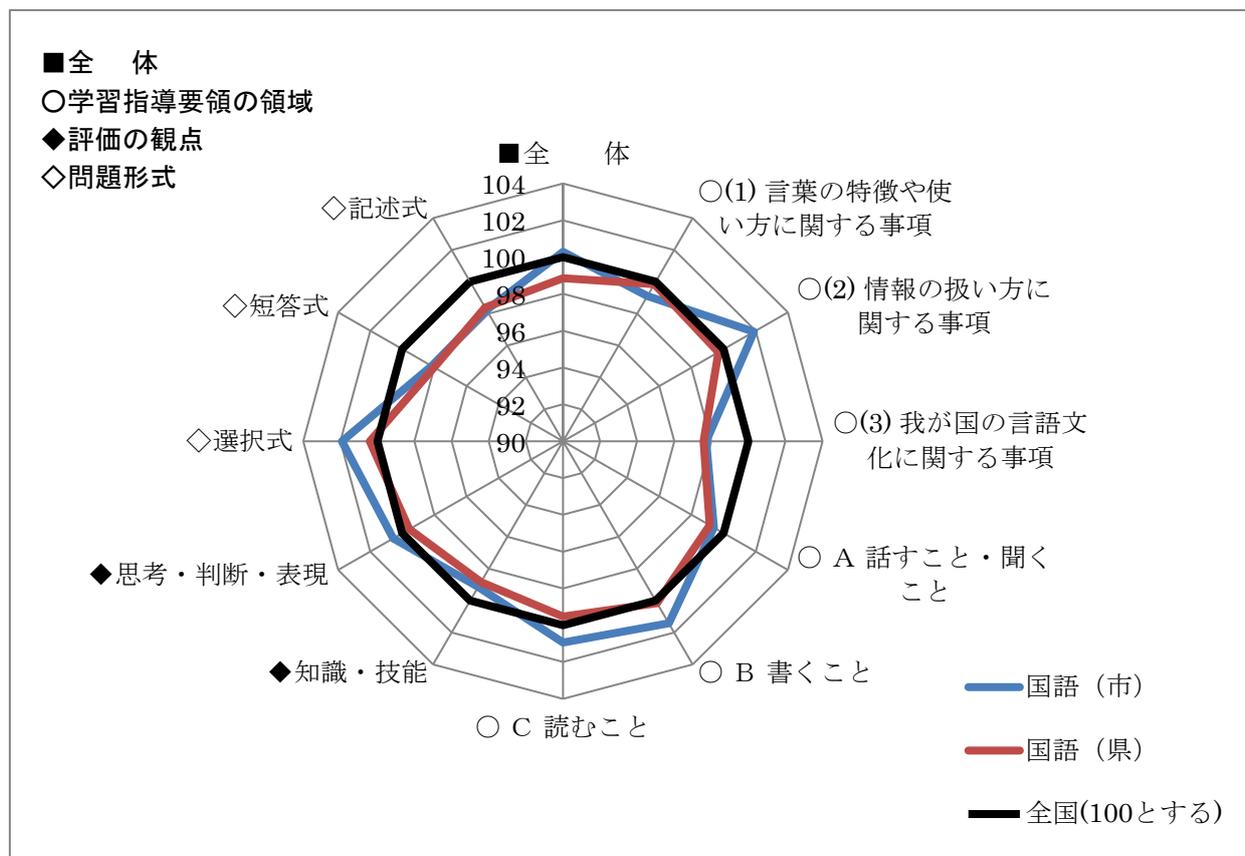
<筆算を具体物や図に表すことで、式と関連付けて考察できるようにする指導の充実>

3(4)では図や式と筆算を関連付けることができている誤答が目立った。

筆算の指導に当たっては、筆算を具体物や図と関連して考察したり、図で考えた結果を式に表したりすることで、筆算を式と関連付けて考察できるようにすることが重要である。

《中学校》 国語 ※全国，千葉県，船橋市，共に公立学校

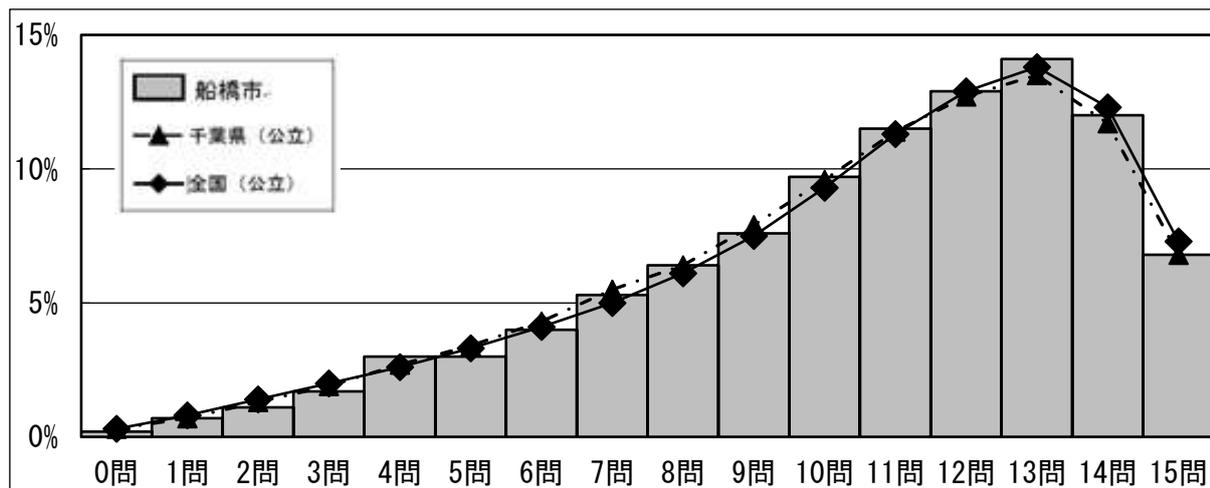
国語		船橋市	千葉県	全国	全国との差	
全 体		70	69	69.8	0.2	
平均正答率(%)	学習指導要領の 内容 知識及び	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	66.9	67.4	67.5	▲ 0.6
		(2) 情報の扱い方に関する事項	64.6	63.2	63.4	1.2
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	73.0	72.9	74.7	▲ 1.7
	表現力、 思考力、 判断力等	A 話すこと・聞くこと	81.7	81.5	82.2	▲ 0.5
		B 書くこと	64.1	63.3	63.2	0.9
		C 読むこと	64.3	63.4	63.7	0.6
	評価の 観点	知識・技能	68.8	68.6	69.4	▲ 0.6
		思考・判断・表現	70.1	69.4	69.7	0.4
		主体的に学習に取り組む態度				
問題 形式	選択式	74.5	73.4	73.1	1.4	
	短答式	64.4	64.3	65.6	▲ 1.2	
	記述式	66.8	66.9	68.0	▲ 1.2	



※全国を 100 とし船橋市と千葉県の比較を百分率で表したグラフ
※今年度、該当する設問がなかったものについてのグラフは省略。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合)

〔国語〕



傾向

- ・全国・県の平均正答率と比べると、全体としては若干高かった。学習指導要領の内容別では、「話すこと・聞くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」にやや課題がある。
- ・無解答率については、全体の60%の設問で全国平均率を上回り、「短答式」「記述式」回答の設問が多かった。
- ・正答数の分布は、全国・県とほぼ同様な分布を示している。また、最頻値や正答率の散らばりに関する値も、全国・県と同様であり、中央値についても、全国・県の値と同様であった。

課題が見られた主な設問

- 1 四「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる」
 <話すこと・聞くこと> (正答率 船橋市 80.4 全国 82.5)
- 2 四「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする」
 <我が国の言語文化に関する事項> (正答率 船橋市 66.1 全国 67.5)
- 3 二「文脈に即して漢字を正しく書く」
 <言葉の特徴や使い方に関する事項> (正答率 船橋市 40.7 全国 43.9)

学習指導のポイント

<漢字を正しく用いる態度と習慣を養う指導の充実の充実>

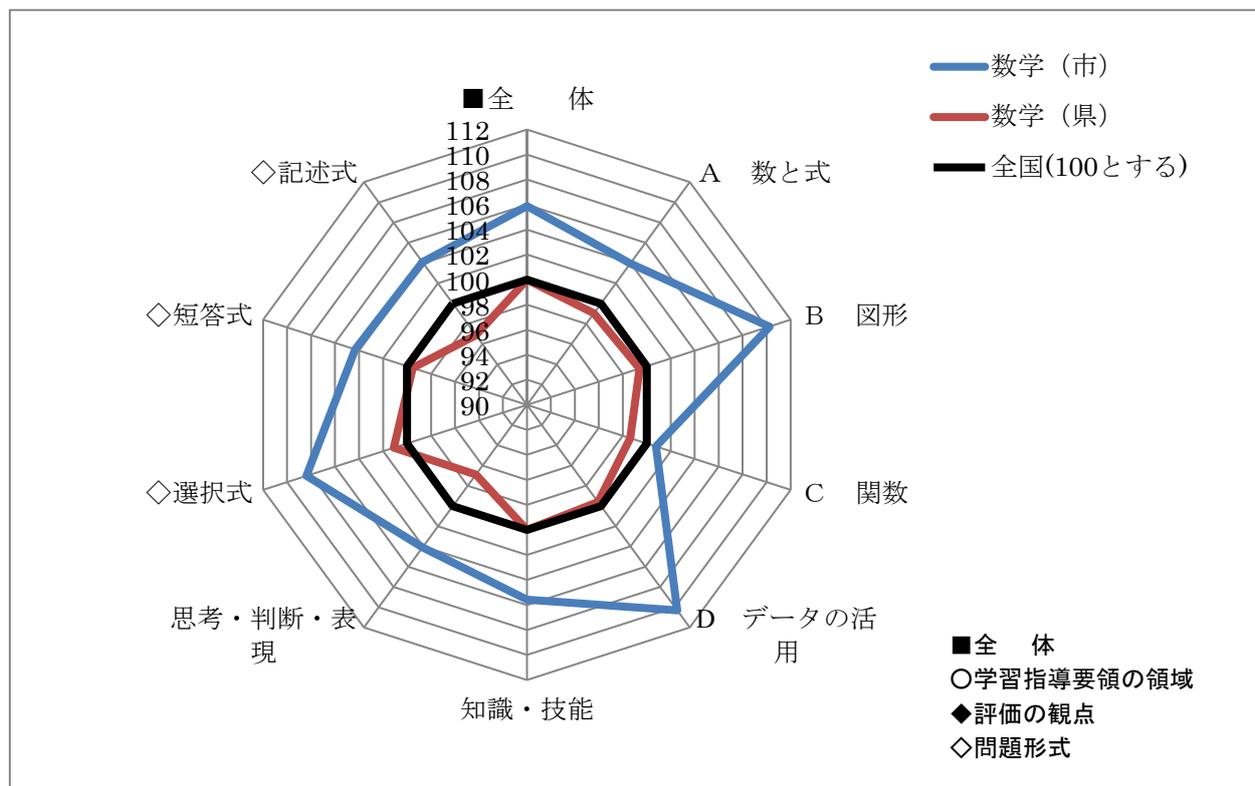
漢字の書きについては、学習指導要領の学年別漢字配当表に示されている 1,026 字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要がある。そのために、国語の授業の中では、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得させるとともに、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことができるよう指導することが大切である。なお、1人1台端末等で文字を入力する際にも適切な漢字を選択することができるよう、変換の際に意味を確認したり、必要に応じて辞書を引いたりするように指導することも重要である。

《中学校》 数学 ※全国，千葉県，船橋市，共に公立学校

数 学		船橋市	千葉県	全国	全国との差	
平均正答率(%)	全 体	54	51	51.0	3.0	
	学習指導要領領域	A 数と式	65.5	62.4	63.0	2.5
		B 図形	36.6	33.0	33.2	3.4
		C 関数	51.6	50.5	51.2	0.4
		D データの活用	53.5	48.3	48.5	5.0
	評価の観点	知識・技能	58.8	55.7	55.7	3.1
		思考・判断・表現	43.3	40.3	41.6	1.7
		主体的に学習に取り組む態度				
	問題形式	選択式	49.1	45.8	45.3	3.8
		短答式	65.3	62.3	62.6	2.7
		記述式	43.3	40.3	41.6	1.7

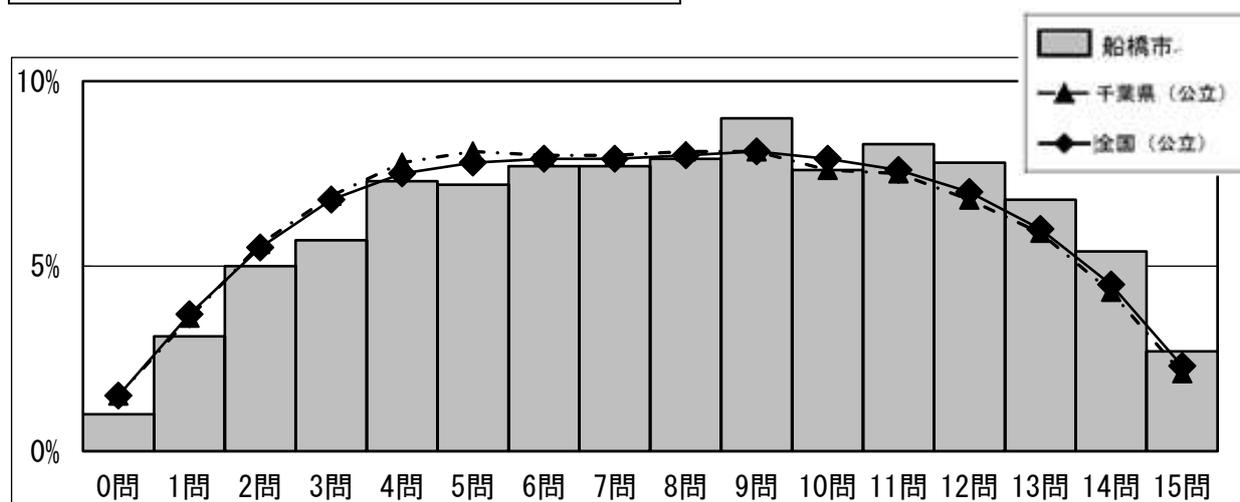
※斜線は該当する設問が無いもの

平均正答率が全国，千葉県共に上回ったもの



※全国を100として船橋市と千葉県の比較を百分率で表したグラフ
 ※今年度、該当する設問がなかったものについてのグラフは省略。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合) [数学]



傾向

- ・全体としては、全国・県の平均正答率と比べると、全ての領域・観点・形式で上回った結果であった。学習指導要領の領域における「図形」「関数」に関してはやや課題がある。
- ・無解答率は、全体の60%の問題で全国平均よりも高かった。
- ・正答数の分布は、全国・県とほぼ同様な分布を示している。正答率の高い生徒の分布は全国よりも若干高い傾向にあり、第一四分位数においても全国・県よりも高い値であった。また散らばりを示す値は、全国・県と同様であった。

課題が見られた主な設問

- 3 「空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解している」 <図形> (正答率 船橋市 37.2 全国 30.4)
- 8 (3) 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できる」 <関数> (正答率 船橋市 41.2 全国 42.8)

学習指導のポイント

<身の回りにある事象を図形として捉え考察する活動の充実>

誤答が多かったのは「空間における平面は同一直線上にある3点で決定される」であった。ここから、実感を伴った理解がされていないことがわかる。

以上のことより、身の回りにある事象から、空間において平面が一つに決まる条件を見だし、実感を伴って理解することができるよう指導が必要である。例えば、「カメラを固定する三脚が、安定して立つことができるのはどうしてか」といった問題を設定し、その理由を考察する活動を設定することが考えられる。

<事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実>

様々な問題に対し数学を活用して解決できるようにするために、表・式・グラフなどを用いて、それらをどう用いたかについて数学的に説明する活動を充実させることが大切である。例としてグラフを用いるのであれば、交点の縦・横どちらの座標が問われているのかなど、解決方法及び解答までの道筋を説明させる活動が考えられる。

《中学校》 英語 ※全国, 千葉県, 船橋市, 共に公立学校

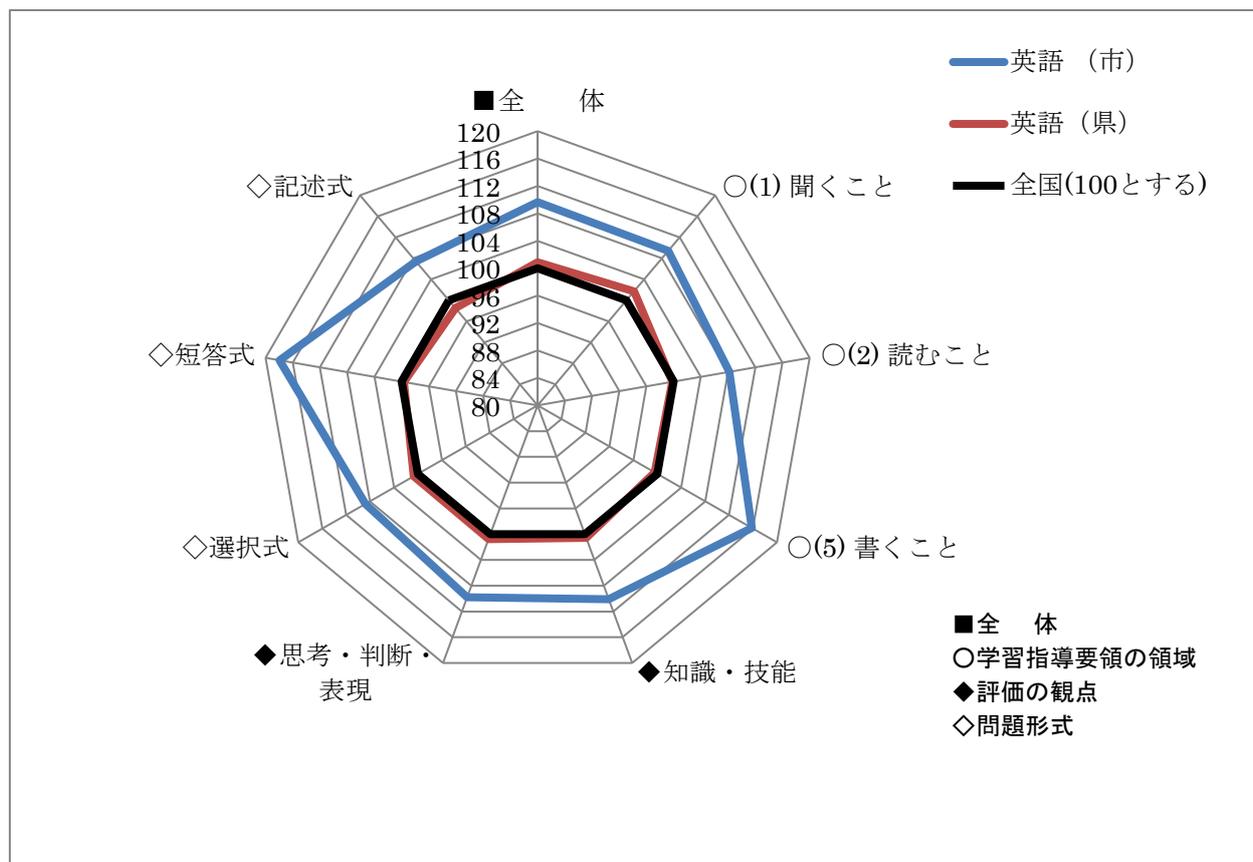
英語		船橋市	千葉県	全国	全国との差	
平均正答率(%)	全 体	50	46	45.6	4.4	
	学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	63.9	59.4	58.4	5.5
		(2) 読むこと	55.4	51.1	51.2	4.2
		(3) 話すこと [やり取り]			14.5	
		(4) 話すこと [発表]			5.3	
		(5) 書くこと	27.1	23.3	23.4	3.7
	評価の観点	知識・技能	56.7	51.8	51.5	5.2
		思考・判断・表現	42.6	39.1	38.8	3.8
		主体的に学習に取り組む態度				
	問題形式	選択式	59.6	55.2	54.8	4.8
		短答式	35.5	30.0	30.1	5.4
		記述式	14.5	13.3	13.5	1.0

※斜線は該当する設問が無いもの



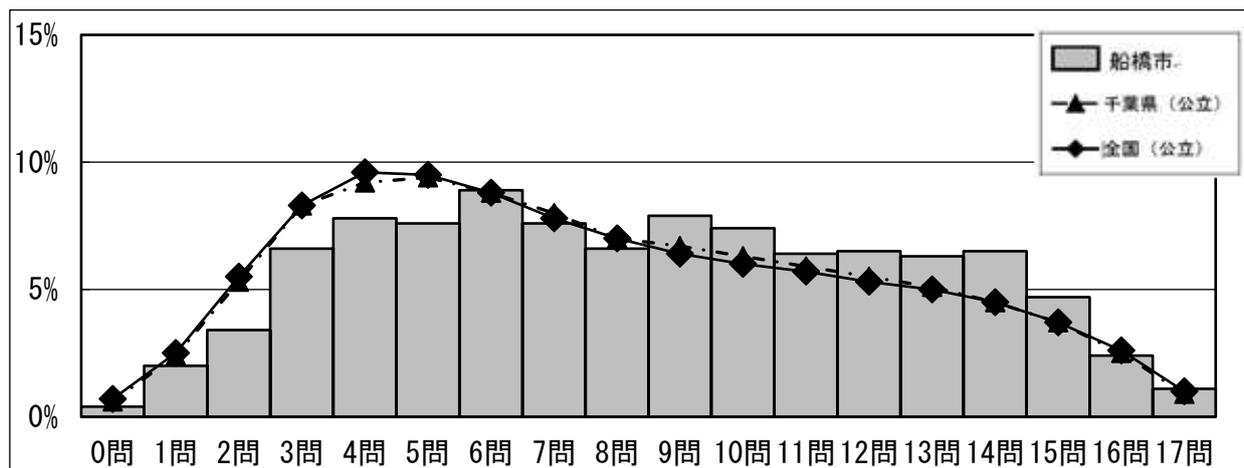
平均正答率が全国, 千葉県共に上回ったもの

※「話すこと」調査の値は参考値のため、全国・千葉県・船橋ともに全体の平均正答率には含まれない。また、文部科学省より全国の平均正答率のみ公表となっている。



※全国を100として船橋市と千葉県の比較を百分率で表したグラフ
 ※今年度、該当する設問がなかったものについてのグラフは省略。

正答数分布グラフ(横軸：正答数、縦軸：割合) [英語]



傾向

- ・全体としては、すべての領域、観点、形式において全国・県の平均正答率を上回った。無解答率については、特に「記述式」回答が求められる設問で多かった。
- ・正答数の分布は、全国・県よりも上位層が多い分布を示している。また、最頻値や中央値も、全国・県を上回った。

課題が見られた主な設問

- 3, 6 自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を把握することができる
 〈「聞くこと」〉 3 (正答率 船橋市 44.7 全国 41.2)
 〈「読むこと」〉 6 (正答率 船橋市 39.4 全国 35.9)
- 8-(2) 日常的や社会的な話題に関して、読んだことについて考えとその理由を書くことができる 〈「書くこと」〉 (正答率 船橋市 21.3 全国 19.5)

学習指導のポイント

〈「聞くこと」「読むこと」〉

自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報かを判断した上で、情報の関係を正確に把握することが重要である。指導に当たっては、語と語の関連や代名詞、接続表現などを手掛かりにしながら、文章全体の大まかな内容を捉えているかを確認することが求められる。

〈「書くこと」〉

○読んだことを基に自分の考えとその理由を書く指導の充実

読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基にコミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて表現することが重要である。指導に当たっては、読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど領域を統合した言語活動を行うことが大切である。

〈知識及び技能〉

○実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける指導の充実

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を理解するだけでなく、実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにすることが重要である。言語活動を行うに当たっては、言語材料について理解したり練習したりするための指導を十分に行う必要がある。

(2) 設問別の状況

①平均正答率が全国と比べ高い主な設問(「差」は、本市と国との平均正答率の差)

《小学校》

教科名	設問番号	設問の概要	差
国語	2三	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する	1.9
国語	2二	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する	1.6
国語	1四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する	1.3
国語	2一	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する	0.6

教科名	設問番号	設問の概要	差
算数	3(2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する	4.9
算数	4(1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ	3.1
算数	4(3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く	2.9
算数	4(2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める	2.9
算数	3(3)	$(151+49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	2.3
算数	2(3)	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く	1.8
算数	1(2)	椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く	1.4
算数	3(1)	2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	1.4

《中学校》

教科名	設問番号	設問の概要	差
国語	2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する	3.2
国語	2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する	2.4
国語	3三	「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く	2.3
国語	2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	2.0

教科名	設問番号	設問の概要	差
数学	5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	8.0
数学	3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ	6.8
数学	1	-5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ	6.7
数学	7(1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める	4.5
数学	6(3)	はじめの数にかける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	3.0
数学	7(2)	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	2.5
数学	6(2)	はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	2.2

教科名	設問番号	設問の概要	差
英語	2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	7.2
英語	1(3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	6.8
英語	9(1)①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	6.8
英語	8(1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	6.1
英語	1(2)	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	6.1
英語	5(1)	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する	5.7
英語	5(2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する	5.7

②平均正答率が全国に比べ低い主な設問（「差」は、本市と国との平均正答率の差）

《小学校》

教科名	設問番号	設問の概要	差
国語	3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	▲ 6.1
国語	1三 (1) ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（ <u>いがい</u> ）	▲ 2.5
国語	1三 (2) イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したものとして適切なものを選択する（ <u>くらべて</u> ）	▲ 2.1
国語	3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	▲ 1.6

教科名	設問番号	設問の概要	差
算数	2（4）	テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く	▲ 1.0

《中学校》

教科名	設問番号	設問の概要	差
国語	3二	漢字を書く（ <u>おし量って</u> ）	▲ 3.2
国語	1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	▲ 2.1
国語	4二	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す（いと）	▲ 2.1
国語	4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（いひける）	▲ 1.7

教科名	設問番号	設問の概要	差
数学	8（3）	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	▲ 1.6
数学	2	$12(x/4 + y/6)$ を計算する	▲ 1.3

教科名	設問番号	設問の概要	差
英語		全国平均を下回る設問はありません。	

3 質問紙調査の結果について

※調査結果について、「1：している」や「1：当てはまる」等の最も肯定的な回答を選択した割合で比較している。

(1) 児童生徒質問紙

①調査結果〔学習意欲、学習方法、学習環境等についての調査項目〕

《小学校》

◇全国に比べ該当する児童の割合が高い項目◇

- ・5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか 「毎日」(船橋市39.4 全国28.2)【+11.2ポイント】
- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか (船橋市36.9 全国31.8)【+5.1ポイント】
- ・これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか(地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、PC・タブレットなどのICT機器を利用して他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど) 「当てはまる」(船橋市31.2 全国28.3)【+2.9ポイント】

◆全国に比べ該当する児童の割合が低い項目◆

- ・国語の解答時間は十分でしたか(45分) (「時間が余った」の回答率) (船橋市23.1 全国29.3)【-6.2ポイント】
- ・国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けていますか (船橋市25.2 全国28.9)【-3.7ポイント】
- ・学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか (船橋市27.5 全国30.6)【-3.1ポイント】

《中学校》

◇全国に比べ該当する生徒の割合が高い項目◇

- ・英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか (船橋市67.6 全国62.4)【+5.2ポイント】
- ・学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか (船橋市61.8 全国58.7)【+3.1ポイント】

◆全国に比べ該当する生徒の割合が低い項目◆

- ・今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか 「最後まで解答を書こうと努力した」(船橋市61.7 全国74.3)【-12.6ポイント】
- ・1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか (船橋市19.5 全国26.2)【-6.7ポイント】

②調査結果〔生活の諸側面、学校生活等についての調査項目〕

《小学校》

◇全国に比べ該当する児童の割合が高い項目◇

- 塾や家庭教師含む
- ・学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
4時間以上（船橋市10.6 全国 7.9）【+2.7ポイント】
 - ・学校の授業時間以外に、月曜日から金曜日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか 3時間以上（船橋市13.8 全国11.8）【+2.0ポイント】
 - ・自分には、よいところがあると思いますか
（船橋市44.2 全国42.6）【+1.6ポイント】
 - ・将来の夢や目標を持っていますか（船橋市62.3 全国60.8）【+1.5ポイント】

◆全国に比べ該当する児童の割合が低い項目◆

- ・今住んでいる地域の行事に参加していますか
（船橋市15.1 全国24.3）【-9.2ポイント】
- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
（船橋市30.8 全国33.4）【-2.6ポイント】
- ・家で自分で計画を立てて勉強をしていますか
（船橋市26.6 全国28.7）【-2.1ポイント】

《中学校》

◇全国に比べ該当する生徒の割合が高い項目◇

- 塾や家庭教師含む
- ・学校の授業時間以外に、月曜日から金曜日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか 3時間以上（船橋市13.2 全国10.3）【+2.9ポイント】
 - ・学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
4時間以上（船橋市9.4 全国6.8）【+2.6ポイント】
 - ・学校に行くのは楽しいと思いますか（船橋市45.5 全国43.3）【+2.2ポイント】

◆全国に比べ該当する生徒の割合が低い項目◆

- ・今住んでいる地域の行事に参加していますか
（船橋市 6.8 全国12.2）【-5.4ポイント】
- ・毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
（船橋市49.6 全国54.8）【-5.2ポイント】
- ・人が困っているときは、進んで助けていますか
（船橋市34.1 全国38.4）【-4.3ポイント】

③考察

学習に対する興味・関心・理解度等の項目に関して、小学校では「国語の文章で書く問題や、算数の言葉や数、式を使ってわけや求め方を書く問題で、最後まで解答を書こうと努力した」「算数の勉強は大切だと思う」「英語の勉強は大切だと思う」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思う」と答えた児童の割合が他の項目に比べて高かった。中学校では、「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」「英語の勉強は大切だと思う」「国語の勉強は大切だと思う」と答えた生徒の割合が他の項目に比べて高かった。その一方で、小学校では「国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている」「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている」「国語の勉強が好きである」、中学校では「国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫している」「国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いている」と答えた児童生徒の割合が他の項目に比べて低い調査結果であった。児童生徒の意欲は高いので、今後もアウトプットすることに関して授業改善を行うことでより一層の学力向上が図れるものと考えられる。

ICT機器の活用に関して、小学校、中学校ともに全国平均を上回る結果となっている。小学校、中学校ともに、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」の回答率が高く、学習へのICT機器の有用性を感じている児童生徒の割合は、他の項目に比べて高かった。電子黒板や1人1台端末等のICT機器のさらなる効果的な活用に向けて実践を重ねていくことが重要である。

基本的な生活習慣や学校生活等の項目に関して、小学校、中学校に共通して「朝食を毎日食べている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「友達関係に満足している」と答えた児童生徒の割合が高かった。一方で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の回答で肯定的な回答を選択しなかった割合が、小学校で3%、中学校で5%となっており、いじめ防止対策に向けた組織的かつ継続的な対応をさらに重視すべきである。

また、昨年同様、小学校、中学校ともに、「地域の行事に参加している」と答えた児童生徒の割合が非常に低く、学校質問紙においても「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった」と回答した割合が低い。学校と地域や保護者が関わる取組を各学校の実態に合わせながら積極的に考えていく必要がある。

(2) 学校質問紙

※調査結果について、「1：している」や「1：当てはまる」等の最も肯定的な回答を選択した学校の割合で比較している。

①調査結果

《小学校》

◇全国と比べ肯定的な回答をした学校の割合が高い項目◇

- ・児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。
(4) 児童の心身の状況の把握 「ほぼ毎日」【+25.9割】
- ・調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか
「ほぼ毎日」【+20.3割】
- ・ICTを活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化（クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等）に取り組んでいますか
「多くの校務で取り組んでいる」【+17.1割】
- ・前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか
「ほぼ毎日」【+12.8割】
- ・教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか 「よく活用している」【+12.3割】

◆全国と比べ肯定的な回答をした学校の割合が低い項目◆

- ・調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか 【-25.4割】
- ・指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか 【-17.7割】
- ・前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか 【-17.2割】
- ・コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか 【-16.4割】
- ・調査対象学年の児童に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っていますか 【-16.0割】

《中学校》

◇全国と比べ肯定的な回答をした学校の割合が高い項目◇

- ・個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）
「よくしている」【+25.4ポイント】
- ・前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか
「ほぼ毎日」【+16.7ポイント】
- ・コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか
「そう思う」【+11.5ポイント】
- ・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか
(4) 生徒の心身の状況の把握
「ほぼ毎日」【+10.5ポイント】
- ・調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか
「ほぼ毎日」【+10.5ポイント】
- ・調査対象学年の生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか
「ほぼ毎日」【+9.6ポイント】

◆全国と比べ肯定的な回答をした学校の割合が低い項目◆

- ・調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか
【-27.9ポイント】
- ・前年度までに、近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか
【-19.9ポイント】
- ・前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか
【-17.3ポイント】
- ・調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
【-16.5ポイント】
- ・指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか
【-13.8ポイント】

②考察

ICT機器の活用に関して、小学校においては令和4年度結果と比較して肯定的な回答が増加し、小・中学校ともに、「教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を、ほぼ毎日行っている」「一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日活用している」「コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分なサポートが受けられている」と回答をしている学校の割合が高く、全国平均も大きく上回っている。一方で、今年度新設された項目で、「児童・生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」の回答では、【ほぼ毎日】【週3回以上】などの肯定的な回答が全国平均を下回り、児童・生徒の特性に合わせた個別最適な学習を目指しての活用が望まれる。

また、授業以外での活用については、小・中学校ともに「ICTを活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化（クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等）に取り組んでいる」「児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童の心身の状況の把握に活用している」という項目で肯定的な回答が多く、より多くの場面で活用が進んでいる状況がうかがえる。

新型コロナウイルス感染症の影響については、学校教育活動の実施方法についての設問で、【体育祭・競技会・球技会】【音楽会・合唱コンクール】【授業参観・学校公開】について【新型コロナウイルス感染症の影響前とは内容や方法を変更して実施した】割合が小・中学校ともに約9割と最も高く、小学校の【職場見学】および中学校の【職場体験学習】については【実施をとりやめた】割合が全国平均よりも約2割高かった。今後、校外学習等の実施内容も含めて、体験活動等の実施内容や実施方法について再検討し、従前の方法に囚われず考えていく必要がある。

また、小中学校の連携については多くの課題が見られた。「全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小中学校と成果や課題を共有しましたか」「近隣等の学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか」「近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか」の項目も低いことから、中学校区の小中学校が連携し、小中合同の研修会を開催したり、教科の系統性などを考えた研究授業の相互参観などに取り組んだり、小中学校間の連携をより密にする工夫を図る必要があると考えられる。

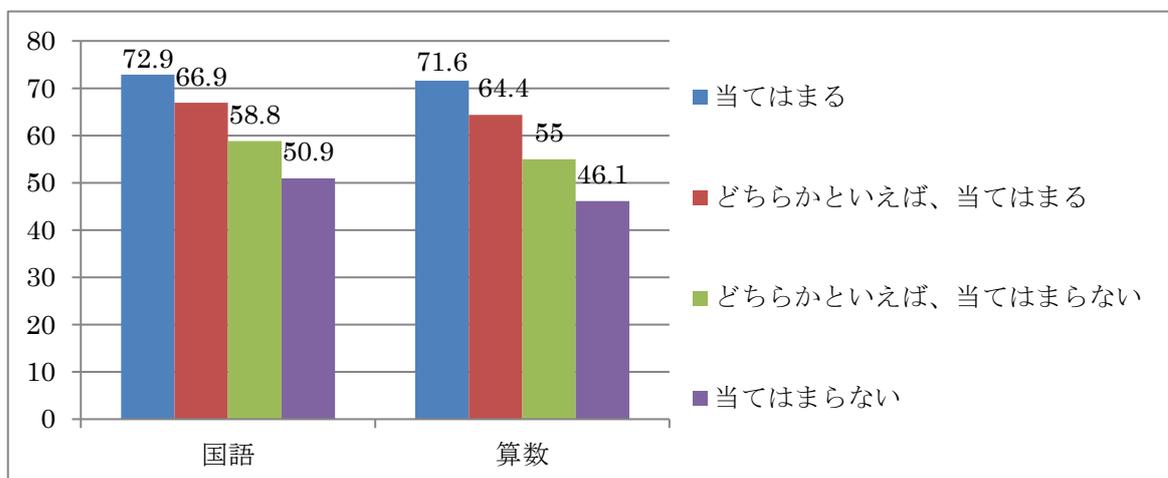
最後に、小・中学校ともに「本学力調査の分析から具体的な指導計画に反映している」の項目が低い結果であった。教員に対し、本調査の趣旨の周知、授業の改善・指導力向上への指導・助言を行い、児童・生徒が主体的に取り組む学習活動の充実が図れるよう各学校を支援する必要がある。

(3) 児童生徒質問紙と学力調査の平均正答率における相関関係

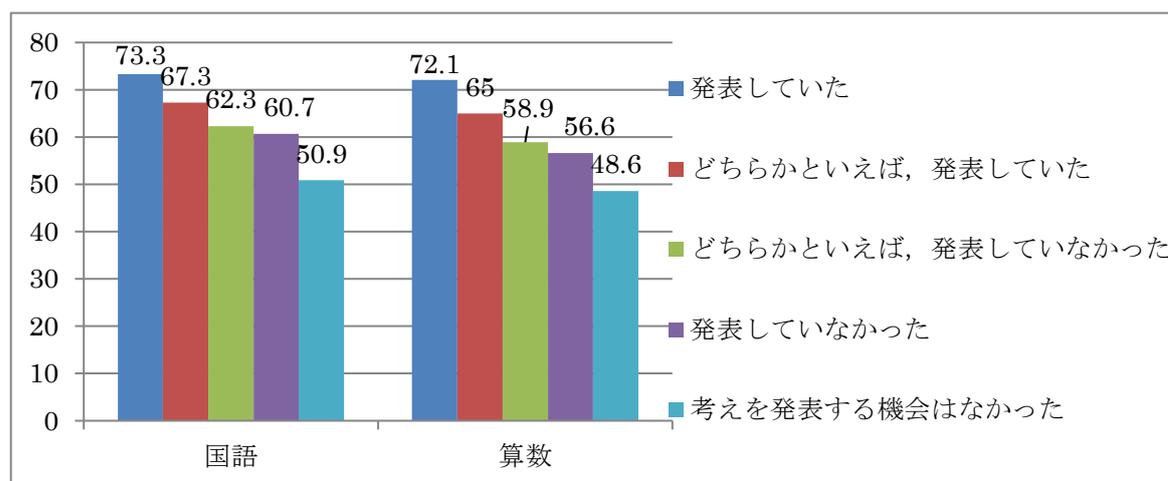
グラフの数値は、児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率を表す。特に、以下の質問に対して肯定的な回答をした児童生徒は平均正答率が高い傾向にある。

《小学校で関連の高い項目》※順番は相関関係の高い順になっている

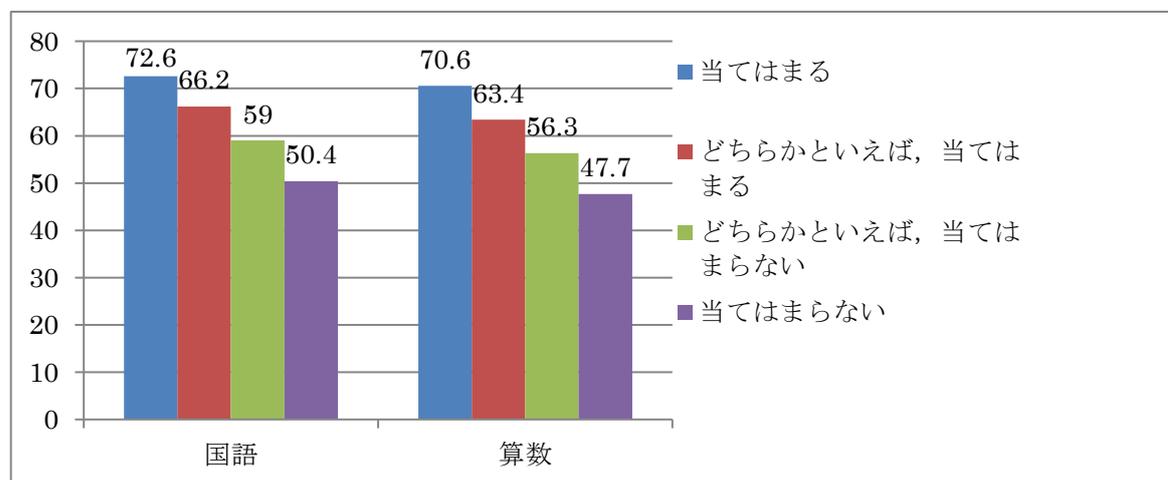
- ① 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいますか？



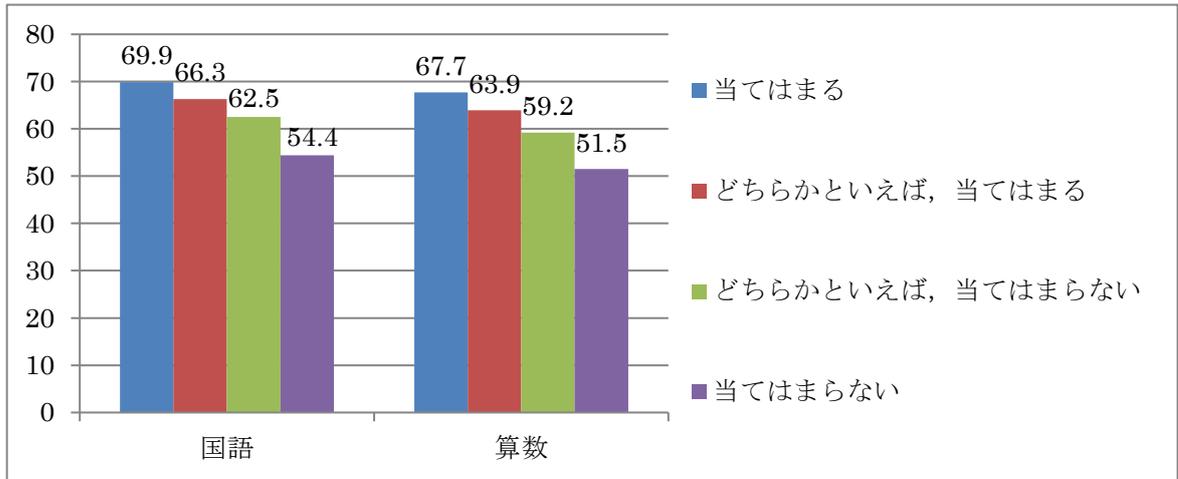
- ② 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



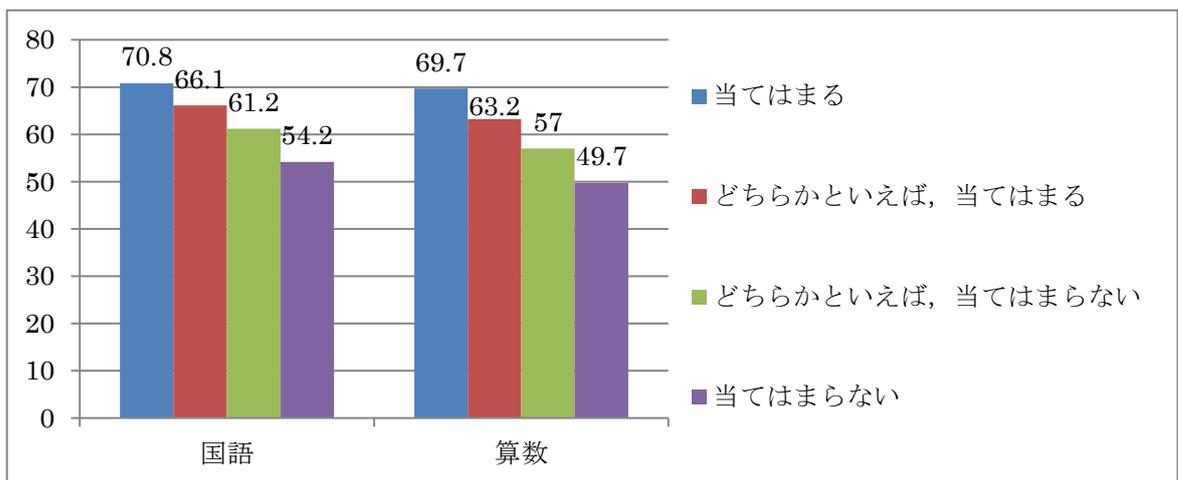
- ③ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



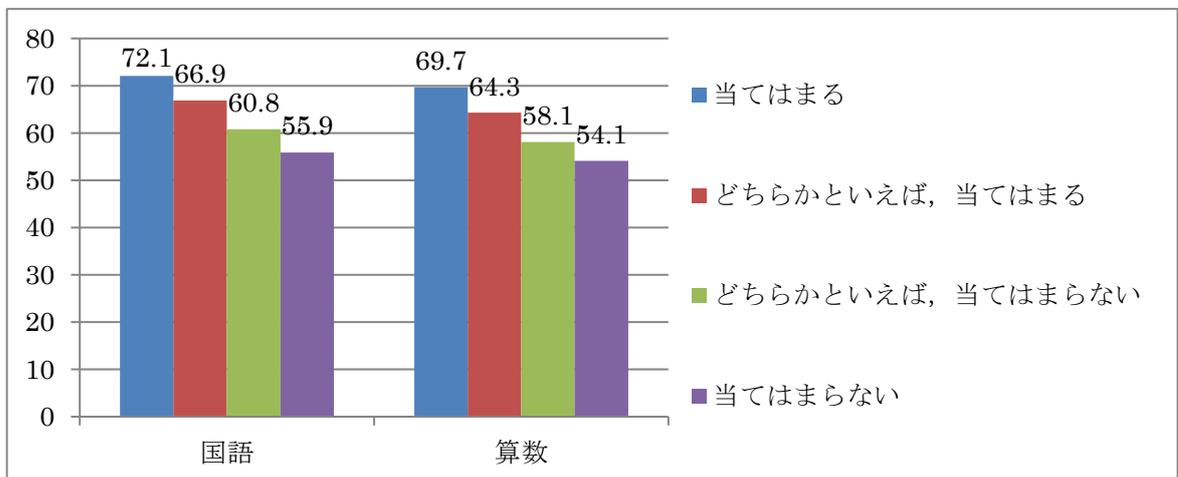
④学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



⑤授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか

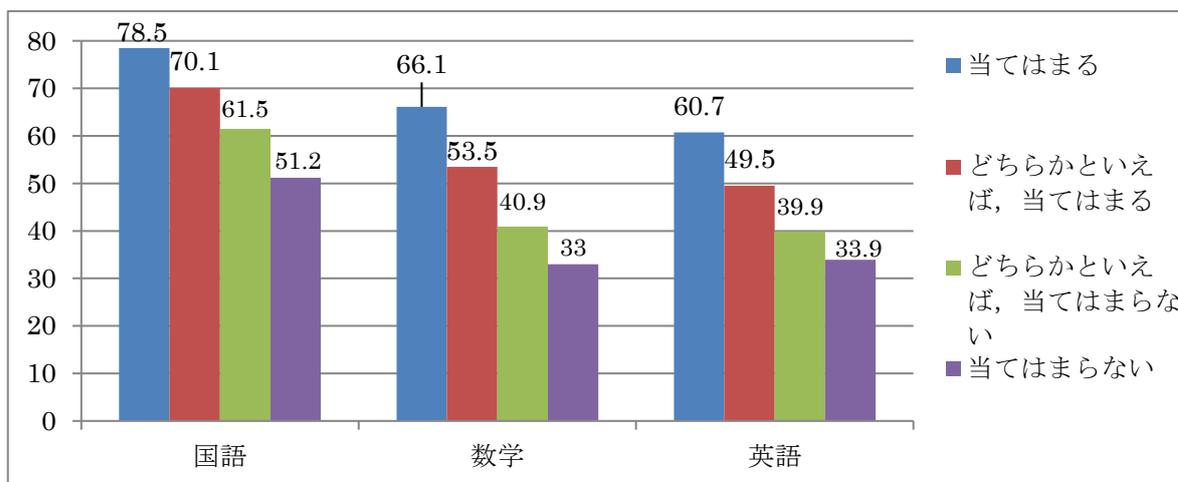


⑥国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか

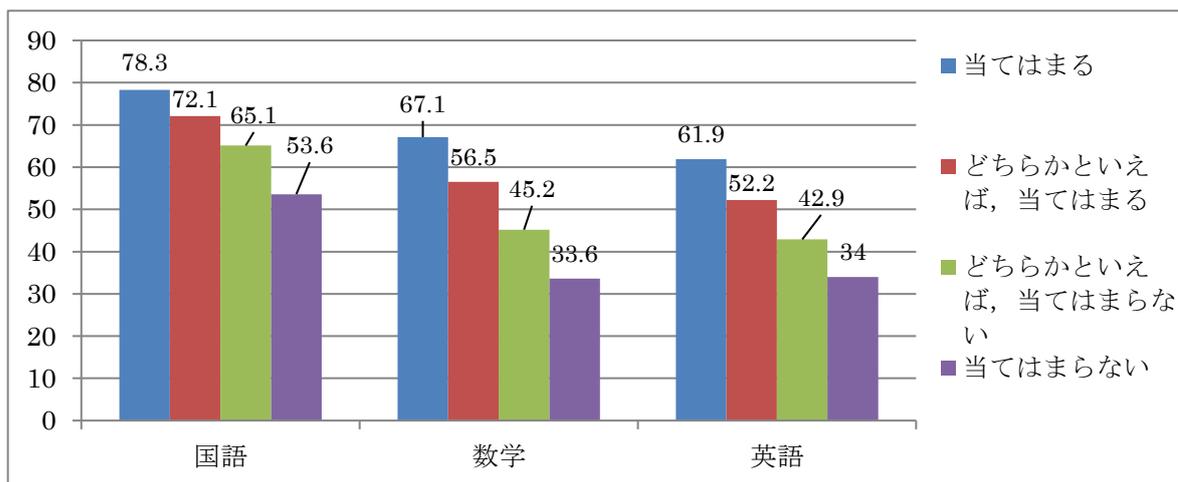


《中学校で相関の高い項目》※順番は相関関係の高い順になっている

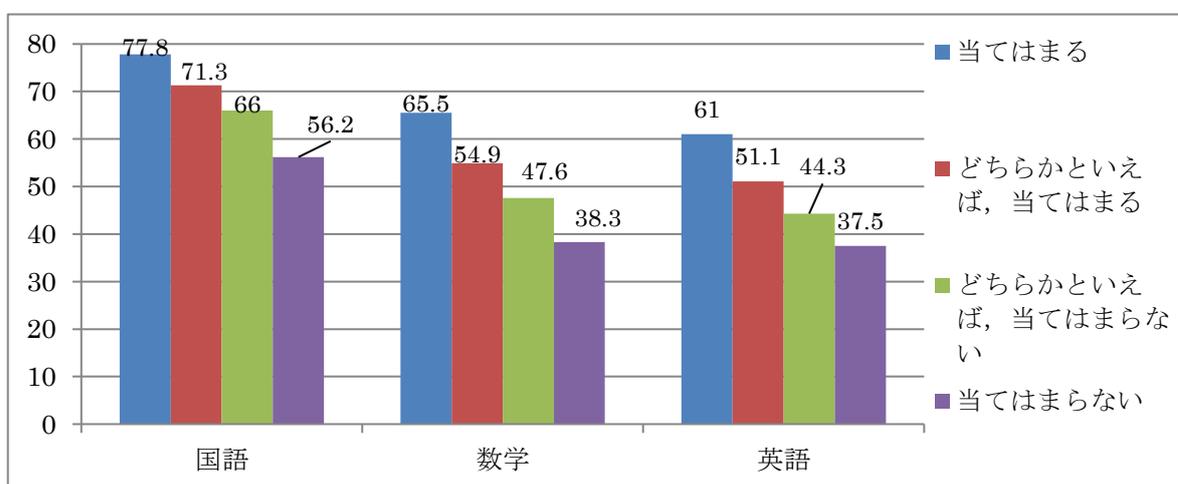
① 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



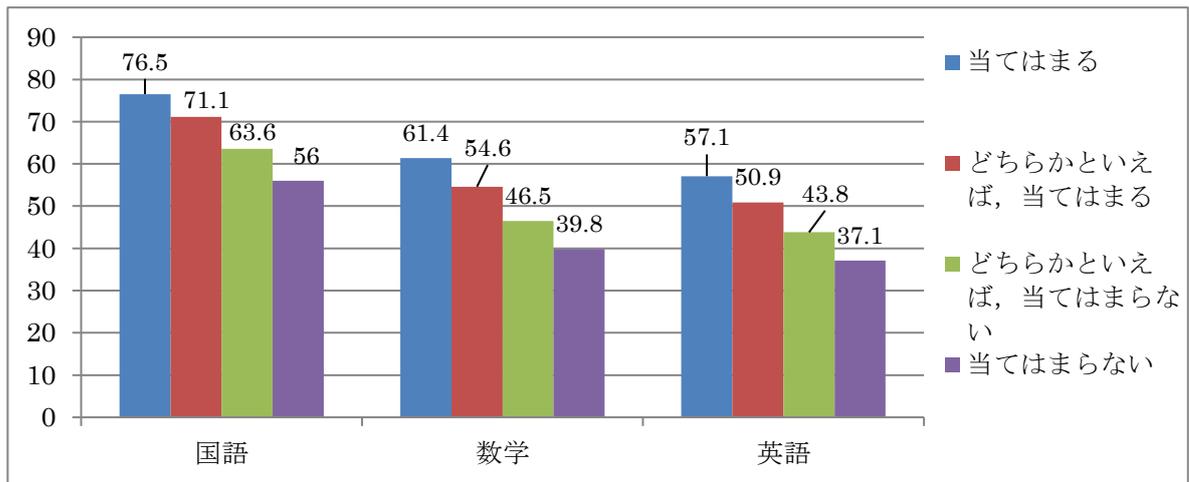
② 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



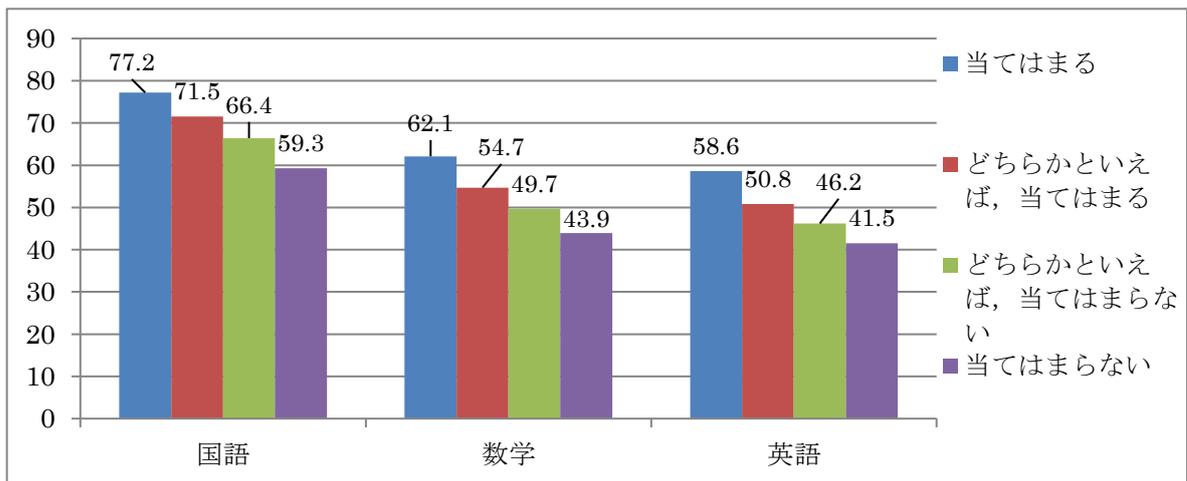
③ 1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



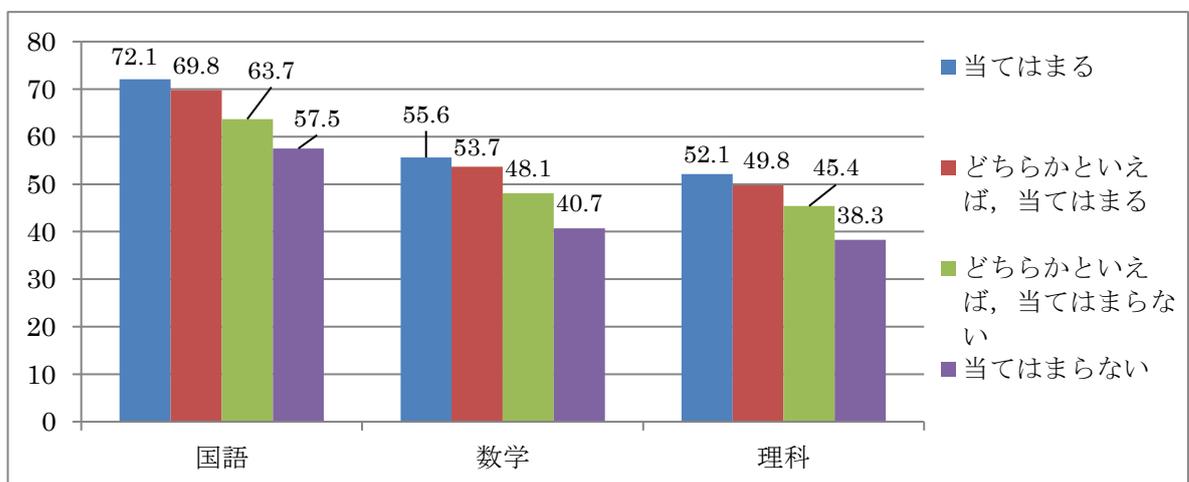
④総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



⑤国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていますか



⑥道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか



<考察>

小・中学校ともに、知識の意味を考えることや知識・技能を使うこと、発表などの場面において言葉で表したり、表現を工夫したりすること、粘り強く考えることなど、育成を目指す資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）に関わる部分との相関が強く見られた。今後も振り返りの視点をもとに、児童生徒が何を理解して何ができるようになったかを認識させながら、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図ることが求められる。

4 調査結果の今後の活用について

- (1) 学校は、調査結果をもとに、自校の学力・学習状況を分析する。自校の分析結果から、課題となる学力や学習状況を明確にし、授業研究や授業での具体的な方策（言語活動の充実、文章表現による記述等）を取り入れるなど指導法の改善を図る。更に家庭に情報提供し、自校の児童生徒の学力向上に努める。
- (2) 教育委員会は、県・全国の平均正答率や質問紙の回答状況と比較し、分析することで施策の立案や改善を図る。

5 留意事項

調査結果については、測定できるのは学力の一部であることを踏まえ、序列化や過度な競争につながらないよう十分配慮する。